

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会

～会 報（7月号）をお届けします～



盛夏の候、会員の皆さまにおかれましては

ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

それぞれのお立場で、新型コロナウイルス感染症の流行と向き合われていらっしゃる

ことと存じます。どうぞ皆さまもご自愛ください。そして、また一堂に会して学び合える日

を楽しみにいたしましょう。

当会では、現在、日本におけるリズムカルアインライビング（以下RE）認定施術者という

資格について検討していますが、IFANが認めるREプラクティショナーの資格認定内容

とどのような違いがあるのか、その実体を知るために「看護ゼミナール事業」として台湾の

RE基礎コースパート1を視察したスペシャリストからの報告がございます。

また、「2018年度看護実践事業」として「会員の自主的な活動に対する助成金」を受けて活

動された会員の方々からの報告もございます。どうぞご覧ください。

また、お読みになったの感想等を事務局までお寄せいただければ幸いです。

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会 <http://www.anthro-nr.jpn.org/>

e-mail: anthro-nr@rel-int.jpn.org

会報担当 山田 恭子

台湾研修視察報告

視察者 久保さえり 村上典子

研修場所	台湾、台中市南屯區大墩七街 149
研修期間	2020 年1月6日(月)8時 30 分 から 10 日(金)6 時 15 分まで
研修目的	日本に RE 基礎コースの導入を考えるにあたり、台湾で行われている RES コーディネーターである Janice Balaskas 氏のコース内容の詳細を見学することで、今後の計画に生かしたい。既に台湾では、RE 基礎コースが行われており、修了生も輩出している。
視察参加者	村上典子(AN/RE スペシャリスト) 久保さえり(RE スペシャリスト)
講座(コース)内容	RE 基礎コース パート 1 (パート3中、最初のパート)
講師	ジャニス バラスカス氏 RES コーディネーター、IFAN 運営委員
主催者	台湾アントロポゾフィー看護協会(協会設立は準備中)



<報告と所感>

研修は、台湾台中市の中心部の住宅街にあるアントロポゾフィー関係の幼稚園として使っている建物で行われました。講義内容は、別紙 1 (*1) を参照してください。RE 基礎コースのパート 1 ということで、参加者は初めて顔を合わせます。参加者は、看護師だけでなく、一般のアントロポゾフィーに興味がある、あるいはシュタイナー幼稚園や学校の関係者といった方々で、皆さんやや緊張した面持ちで始まりました。今回の講師はジャニスさんで、アメリカのキャンピル共同体に所属されています。彼女が教える RE コースは、彼女の先生である **Edelgard Grosse-Brauckmann (*2)** さんの教授方法に則って、丁寧かつクリアな方法で教えられていました。私たちの講師であるサーシャさんとは少し異なったアプローチの技術や方法です。例えば、解剖学的に、どこをどのように触れていくのか？ そして、どのようにリズムを捉えていく

のか？といった質に対して、明確なポイントがわかるように、実際に施術する部位（皮膚）にリップスティックでマークしながら説明し同時にデモンストレーションでイメージが掴めるように配慮されていました。下腿から徐々に部分を増やし、いくつかの組み合わせのパターンとして技術を動作の中に落とし込めるように組み立てられていました。また、個人の成長やグループダイナミクスにも配慮されて、一人ひとりの受講者に丁寧に対応されていました。コースの組み立てが明確で、今はどこに焦点を当てて何を行うのかを強調しながら、一つ一つの質基準が身につくように配慮されていました。

(*2) Edelgard Grosse-Brauckmann : RE 指導教官、1966 年から RE トレーニングのコンセプトを開発している。RE の教官の育成と RE コースをアメリカやイギリスなどで開催している。



初めは、初回のコースのためグループとしてまだ機能していないので、私たちは見学だけだと言われていましたが、人数調整等でデモンストレーションのモデルや施術相手として参加していく内に、少しずつみんなの中に入っていくことができました。実際に施術を行い、教えることも経験させていただきました。ジャニスさんにも施術を見ていただきながら、ご意見をいただきました。また、コース運営としてこの基礎コースでは何を学ぶのか、もし、それ以上の学びが必要だと感じたのなら、次の段階に参加するようにといった参加者のモチベーションを高める関わり方も学べました。

この基礎コースには、看護師の資格のない方達も参加されていましたが、全ての参加者に対し、丁寧かつその方達の能力や理解度に合わせた関わりをされていました。看護師資格のある方が、施術資格を得るためには、30例の症例を、一定の形式に沿って記載したものを提出することが課せられています。この症例に対しては、一例ずつジャニスさんが内容を丁寧にチェックして、フィードバックされますので、まとめて提出するのではなく、随時記入したものを提出していく形を取られ、フィードバックごとに少しずつ思考や焦点の当て方が整理されていくように配慮されるということでした。看護師に対する修了証の授与には、症例等の課題のプレゼンテーションが必須となっています。すでにコースを終了した方が、今回の参加者にプレゼンテーションする機会が設けられていました。

コースの内容や方法に関して、ジャニスさんと話す機会をいただき、どのように教えているのか、何を大事にしているのか等話し合うことができました。



参加された受講生や台湾のコース運営を行なっている方々には、とても親切に仲間として受け入れていただきました。台湾では、複数のシュタイナー学校の設立に伴い、アントロポゾフィー医療や看護の需要が高まっています。今後、台湾のアントロポゾフィー看護師たちとも交流できれば多くの学びができると思います。また、アジアでは、中国、タイ、インド等においてアントロポゾフィー看護への関心が高まっています。それに伴って、アントロポゾフィー看護スペシャリストやREスペシャリストが、多く育ってきています。タイでは、大学レベルのアントロポゾフィー看護の教育にも関心が高まっているようです。今、アジアの「アントロポゾフィー看護が熱い」と感じてきました。

(*1)

RE 基礎コース パート1 2020 年 1 月 6 日から 10 日 台中市、台湾

赤字は、 Quality Criteria 質の基準

	月	火	水	木	金
8:30 – 9:15	RE の歴史	オイリュトミー	オイリュトミー	オイリュトミー	オイリュトミー
9:15-10:45	IFAN RE ハンドブック 成人の学習プロセス 手の部分 リラックスした手	膝のデモンストレーション 膝に GL と OL の描写 実施	カウンタームーブメント デモンストレーションと実施 ふくらはぎ・膝・大腿	デモンストレーションと実施 座位での背中・足	実施 (施術間に休憩) 全施術 座位での背中、ふくらはぎ、膝、大腿、足
10:45-11:15	休憩	休憩	休憩	休憩	
11:15-12:45	体位と姿勢 ふくらはぎ デモンストレーションと実施	大腿のデモンストレーション 大腿に GL と OL の描写 実施	植物の 3 層構造 人間の 3 層構造 治療に使うオイル	オンゴーイング アウェアネス (継続的な認識) 実施 ふくらはぎと大腿	
12:45-2:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
2:00-3:30	ガイドライン GL とオリエンテーションライン OL ふくらはぎに GL OL の描写 実施	実施 ふくらはぎ・膝・大腿	実施 ふくらはぎ・膝・大腿、足	治療的な環境 治療に用いるオイル	ケースプレゼンテーション 施術レポート 復習 宿題 質問
3:30-3:45	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
3:45-5:15	リズム段階と転換点 ふくらはぎ デモンストレーションと実施	足のデモンストレーション 足に GL と OL の描写 実施	座位での背中のデモンストレーション 背中に GL と OL の描写 実施	実施 (施術間に休憩) 全施術 座位での背中、ふくらはぎ、膝、大腿、足	適応と禁忌 実施できる範囲
5:15-6:15	4 つの元素	人間の 4 層構造	人間の 4 層構造 Quality Criteria (質の基準) 温かさ		おわり

RE 基礎コース パート2(5 日間コース)

理論 成人の（7 つの）学習プロセス

RE パート 1 の復習

Quality Criteria 質基準、休憩時間、対極としての腕と足、軽さと重さ、治療に用いるオイル

実習 腹臥位での背中、胸、腹部、上肢

RE 基礎コース パート3(5 日間コース)

理論 成人の（7 つの）学習プロセス、

RE パート 1 & 2 の復習

皮膚・筋膜・リンパ・ゲータ的な観察、治療に用いるオイル

実習 全身アインライブング、レムニスケート背部、喘息背部

患者の欲求を支持するためのフォーカスポイントを、施術ごとに 1 つの質を選ぶ。常にどれかの質に焦点を当てた実習すること。

IFAN の認定証は、看護師のみに与えられる。

完全に全身アインライブングができることと 30 例の施術報告（施術記録用紙にのっとして）が、看護師として RE 基礎コースの修了証を受領するために必要

参考まで；Quality Criteria 質基準とは、これらの質がリズムカルアインライブングのリズムカルな印象に貢献するものであり、何がリズムカルかということを示すものであると考えます。アインライブングが、リズムカルという形容詞がつく要素を示す重要な視点だと思われます。

参考資料： Handbook for Rhythmical Einreibungen according to Wegman/Hauschka,

edited by Monica Layer (蔵書にあります)英語版 P37～67

原著：Praxishandbuch Rhythmische Einreibungen nach Wegman/Hauschka by Verlag Hans Huber.

『会員の自主的な活動に対する助成金』を受けられた4件の活動報告（2018年9月～2019年8月）

助成金についての説明は当会 HP の会員ページをご確認ください。

アントロポゾフィー看護の普及に寄与する活動

活動場所:湯河原リトリートご縁の杜 (神奈川県足柄下郡湯河原町)

千田 恵子

2018年9月9日(日)に開催されました自然療法機構主催の「NaO フェス 2018 秋 at 湯河原リトリートご縁の杜」に参加し、ブース出展にて、リズムカルアインライビング(以下 RE とする)の紹介と体験の機会をもちました。

この NaO フェスは自然療法機構の会員を中心に、全体で 27 のブース出展があり、参加人数約 70 名でした。テーマは「ホリスティックな世界 緑の力から医療まで」で、日本アントロポゾフィー医学の医師会の山本忍先生の講演会がありました。

RE の施術は 3 名の RE 認定施術者で実施し、23 名の方に体験いただくことができました。施術内容は RE について説明し、オイルを選んでいただき、椅子で背中・服の上から、前腕と手はオイルを使つての施術の後、5 分ほど休んでいただくという流れで、一人 15～20 分程度。オイルは WELEDA のラベンダーとワイルドローズ、Dr.ハウシュカのムーアラベンダーオイル(講演会で山本忍先生から紹介あり)の 3 種から選んでいただきました。体験された方は山本先生の話聞いて関心をもたれた方が多く、シュタイナーのことを知っている方や初めて聞いたという方もあり、リーフレット等配布にてご案内しました。関東からの参加が多く、全身の施術に関心のある方には当会の HP をご案内しました。山本先生の講演と同時開催でのこのイベントで、体験ブース出展をしたことで多くの方にアントロポゾフィー医療や看護、RE を知っていただく機会になったと思います。また、3 名の RE 認定施術者に関わり、それぞれが施術できる機会となり、お互いの交流の場にもなったことは意義深いことでした。

この活動に対して「会員の活動に対する助成金」をいただきましたので、ご報告させていただきます。

アントロポゾフィー看護を用いて行う社会貢献活動

リズムカルアインライビング実施報告

阿部 一子

COVID-19 による感染拡大で、日常の当たり前に行なってきたことが、出来なくなり、自分自身の看護職としての役割やどこに根差して立っているのか、存在のありようまで問うことになりました。

さて、コロナ騒動のない 2018 年度の、RE のボランティア活動に看護職の会より 4040 円の助成金をいただきましたので、ここにご報告いたします。ありがとうございました。

1)大学祭での健康コーナーでの RE 施術

2019年5月26日上智大学の看護学部健康コーナーにて、1 期生の藤井智恵美さんと 32 名の方に手と着衣の背中に施術しました。受ける方は、主に大学の卒業生のご年配の方が多く、毎年、楽しみに来てくださる方もいて 4 年目になりましたが、学内の新聞にも紹介され、少しずつ定着しつつあります。施術後は、机にうつ伏せになって休んでいただくのですが、皆さま様に崩れるようにお休みになられ、お疲れのご様子で、RE が、もっと一般社会にも普及することを願い、RE のパンフレットをお渡しています。今回も、施術件数が多く、看護学生さんとも話をする余裕がありませんでしたが、次回はアントロポゾフィー医療のお話をさせていただき一人でも多くの看護学生さんがアントロポゾフィー看護に興味をもって頂けることを願っています。

2)多摩全生園での元ハンセン病の方への RE

今までの経緯は、以前にもお伝えしましたので、ここでは省略させていただきます。2019年8月3日、伺って RE の施術をさせていただいたのは、85 歳の元ハンセン病の患者さんのご婦人です。

いつも楽しみに待ってくださっています。午前中から伺い、まずはおしゃべり、昼食をご一緒して午後から RE を施術、乾いた植物が水を吸い込む様に全身で、RE を受け止められます。夕方に帰宅のゆったりとしたスケジュールです。

今年度はインフルエンザの流行で、施設には、入れなかったり、体調を崩されたりで、なかなか施術の機会がなく、今年は1回だけの実施となりました。

以上 2018 年度の活動報告でした。

少し早めに歩き始めた者として、老婆心ながら(漢字にするとかかなりリアルです、、、確かに老婆の齢です)この機会に少しお話させてください。

RE 施術資格を取得なさっても、なかなか施術する機会がないと支部の集まりなどでお聞きします。実態調査を拝見しても、当初からこの傾向が続いているようです。施術しない期間が長くなると益々施術に自信がなくなり遠のいてしまいます。アントロポゾフィー関連の場を持っていなくても、この RE は、実際、皆様に喜ばれます。ただ経験上、良かれと思って施設などにこれはドイツの医学の、、、と能書きを言うと、かえって怪しまれてスムーズにいきません。軽くオイルマッサージとお話する方が、スムーズに事が運びます。まずは、体験していただくことです。お知り合いの方でも、お身内でも、近くの老人施設でも、お一人の方から継続して RE をさせていただくことをはじめてみませんか？そこには、たくさんの学びや喜びをいただくことになると確信いたします。

また、助産師の方は、助産院で、RE を取り入れられることをお勧めします。近年、「産後ケア事業」が各市町村において展開されていると思います。私の助産院でも一昨年より、産後ケアに RE を取り入れ、昨年のアドバンスの時に発表させていただきましたが、EPDS(エジンバラ産後鬱病評価表)(自己肯定感評価)などで、良い結果が出ています。市町村の補助金が出ますので、お母さんたちにも経済的な負担が少なく好評です。

看護の本質を表現するのに、「愛によりて真理へ」と表現されることがありますが、私たちが学びの途上にある難解なアントロポゾフィーも、「頭」からだけでなく、行為することによって、理解し見えてくるが大いにあると感じています。実践からアプローチするアントロポゾフィーへの道もいいルートかと思います。

先日の 5 月 10 日にハラルド・マテス医師による、ドイツのベルリンから zoom にて、COVID-19 に関しての講演の聴講の機会に恵まれました。

ベルリン初のコロナ外来を開設する時に、「より良質の応対をしよう」とスタッフ一同で話し合ったとのことでした。ス

タッフの質の高さに感動しました。大変な臨床現場においても、実際に湿布や、RE などの看護ケアが行われ特に呼吸困難の患者さんは不安傾向が強いため、人間的な看護ケアが患者さんに安心感をあたえ、回復に大きく寄与した事を知り本当に勇気づけられました。私たちには、不安で、絶望している患者さんへの看護ケアの学びがあることをあらためて感謝します。そして、心臓の力(愛)をもって実践していきたいと胸を熱くしたのは、私だけではないと思います。

アントロポゾフィー看護の研究

～リズムカルアインライブングの効果の

実証研究計画について～

磯部 悦子

私はアントロポゾフィー医療研究発表会で「リズムカルアインライブングの効果研究にむけて」という演題で発表をしました。内容としては、リズムカルアインライブングの効果について研究するにはどのような可能性があるのかについて発表をしました。この研究については、私にリズムカルアインライブングを知らせてくださった、リズムカルアインライブングスペシャリストの千田さん、久保さん、そして私と同じくアントロポゾフィー看護について学んでいる 3 期生のゼミ生の井上さんとともに、議論を重ねて来ました。どうしてもこのような研究をしようとするのかについてですが、それはリズムカルアインライブングを必要としている方々に正しく届けることができるようになるためには、研究を行い明らかになったことをそれを知らない医療従事者に知っていただきたいという理由があるからです。現在の医療は実証できている効果が明らかな医療のみが保険で提供されており、それ以外の本当は効果があるのに提供されることがない医療について患者さんはなかなか享受することができません。そこに対して、何らかの方法で表現していくことで、リズムカルアインライブングを必要としている方々に届くようになることを期待して研究を進めていきたいと考えています。